



国立七大学附属図書館協議会

昭和 41 年度 (第 41 次) 国立七大学附属図書館協議会は去る 9 月 28 日, 29 日の両日, 東北大学附属図書館において, 館長, 部課長等出席のもとに, 文部省側も出席して開催された。会議は東北大学, 金谷館長の議長ののもとに, 予算関係, 人事関係及び組織関係の各議題に分けて進められた。その主な点を挙げると予算関係議題としては, 指定図書費, 参考図書費, 特別図書費, 総合目録作成費等昨年度との関係議題に, 新しく学生用図書を充実するための学生用図書費の確保, を加えて要望書を提出することとした。又最近, 製本関係業務の増加に対処するため, その機械化による打開策が検討された。人事関係議題としては, 図書館職員の増員を要望することと, 国立学校図書専門職員採用試験合格者 (上級, 甲種) の処遇と各館間の交流をより活発に行うことについて協議した。組織関係議題としては図書館の近代化に伴い, その事務機構の複雑多様化に対処するための機構整備と, 大学における総合的図書館行政に関し附属図書館及び各部局図書館 (室) 等の施設が必要とする規模などにつき検討がなされた。

その他図書館の蔵書計画, 図書館学科の設置, 本協議会の在り方など, 今後とも検討を進めることとした。特に本協議会と併せて附属図書館の業務連絡会議を設けることについては討議の結果, 来年度の協議会開催校である東京大学が計画してみることにした。このことは, 最近事務的処理事項の急増と併せ考え, その結果が期待されるものである。

全国国立大学図書館長会議組織強化に関する 特別委員会（第一回）

昭和 42 年度（第 14 次）全国国立大学図書館長会議、研究集会の議題「館長会議の組織強化について」によって開かれた特別委員会は、去る 9 月 26 日東京大学附属図書館において東京大学外 13 大学の附属図書館長が出席して開催された。会議は広島大学の北林館長が委員長に選出され全国国立大学図書館長会議会則の改正要綱（案）について審議が進められた。主な点は次のとおりである。（一）館長会議を国立大学図書館協会という協会組織に改めること、（二）常置委員会を新たに設けること、（三）会費増額に伴う負担区分の改正に関すること等である。

尚次回第 2 回特別委員会は明年 1 月中旬に行なわれる予定である。

北海道地区大学図書館協議会

第 17 回北海道地区大学図書館協議会は去る 10 月 2 日、北星学園大学において、北海道大学他、道内の大学 12 校を集めて開催された。会議は報告事項及び協議事項の順に進められたが、その主な事項は次の通りである。

報告事項には第 11 回北海道地区大学図書館研究集会の報告（札幌医大）、札幌大学と北海道工業大学が新たに協議会に加盟したこと、年報“北海道の大学図書館”が出たこと等である。

協議事項では、北海道地区大学図書館協議会規約の一部改正がとり上げられ、協議会の組織と本会への加盟手続等に論議が集中した。その他国立大学関係として、物品管理法適用の実情、研究報告類の配布手続等につき討議を行なった。尚今後の検討事項としては、現在の研究集会の実施方法について、地区総合目録を作成することについて、等北海道大学において検討することとして協議会を終った。

資料紹介

雑誌論文の検索資料について (2)

前回は国内において定期的に発行されている雑誌論文の検索資料のうち、主要なものいくつかを紹介した。これらの資料は「科学技術文献速報」を除けば主として国内雑誌を対象としているので、外国雑誌についてはやはり諸外国で刊行されている雑誌記事索引誌もしくは抄録誌に頼る必要があろう。今回はこれらのうち次の 2 点を紹介する。

＊ **Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur, Leipzig→Osnabrück, Felix Dietrich, 1896～**

これは誌名が示すように、世界各国の全ての分野の学術雑誌を網羅的に収録したドイツの雑誌記事索引誌である。本誌は 1896 年に下記の Abt. A の誌名で創刊されたのち、1912 年に IBZ の総合誌名の下に次の 3 シリーズに分れた。（ ）は収録年。

Abt. A : Bibliographie der deutschen Zeitschriftenliteratur, mit Einschluss von Sammelwerken. v. 1 (1896)–128 (1964) [本館欠 100 (1950)–125 (1962)]

——**Ergänzungsband, v. 1 (1908)–20 (1861)** [補遺のため収録年と巻次の順は一定せず。本館全揃]

Abt. B : Bibliographie der fremdsprachigen Zeitschriftenliteratur. v. 1 (1911)–22 (1921/25), N.F. v. 1 (1925/26)–51 (1962/64) [本館欠 N.F. 26 (1944)–49 (1960) うち 26–29 は未刊]

Abt. C : Bibliographie der Rezensionen. v. 1 (1900)–77 (1943) [以後廃刊。本館全揃]

以上のうち Abt. A はドイツの雑誌の記事索引で、この中には定期行物のほか学会紀要、年報、論文集なども含んでいる。収録誌数は第1巻は僅かに275種であったが、のちには約4,500種となった。収録期間も *Ergänzungsbände* をいれると1861年まで遡り、これによって現在に至るまでの約100年間のドイツの主要学術雑誌の殆んどについてその掲載論文を検索することができる。収録論文はドイツ語の件名 (*Schlagwörter*) によって分類され、件名はアルファベット順に排列されている。記載の内容は論題、著者名、誌名番号、巻、年、頁の順である。またこの雑誌の大部分の巻には著者名索引 (件名へ導く) が付せられているので、ある著者についての論文を系統的に拾いあげることも可能である。

Abt. B は上述の Abt. A にならって、1912年より刊行を始めたドイツ以外の国の主要学術雑誌の記事索引である。収録誌数は約1,400種。記載の方法も Abt. A と同様であるが、著者名索引は *Neue Folge* 以後付せられることになった。1944~1948年の期間は未刊である。

Abt. C はドイツおよび諸外国の学術雑誌にのせられた書評の索引誌である。これは1943年以後廃刊となったが、その網羅的なことおよび内容の正確さの故に現在でも価値を失っていない。

上述の Abt. A と B は1965年以降統合され、*kombinierte Folge* として再出発し、誌名も *Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens*、となった。これはドイツとそれ以外の国の雑誌を統合して名実ともに世界の学術雑誌記事索引誌となり、第1分冊についてみれば約7,600種の学術誌を対象としている。英語、フランス語の件名から参照が付せられたことは、本誌がより国際的になったことを示すものである。

件名は大文字とアンダーラインの使用によって見易くなり、論題の記載法も従来のような流し書きをやめて、一論題毎に*をつけて改行し検索が非常に容易になった。刊行は1年に2 *Halbbände* で、各 *Halbband* ごとに著者名索引 (件名へ導く) が付せられている。実例を示せば次の通りである。

ATOMBOMBE^①

* British-American collaboration on the A-bomb in World War. II.^② (Harvey

A. DeWeerd)^③ 11237 d,^④ '64,^⑤ p. 29–47^⑥

① 件名 ② 論題 ③ 著者 ④ 雑誌番号 (巻頭の雑誌リストによれば、これは R. N. Rosecrane 編集の論文集 *The dispersion of nuclear weapons; strategy and politics*, N.Y., 1964 である) ⑤ 刊年 ⑥ ページ
CEREALS=Getreide

これは英語の件名からドイツ語件名への参照を示す。

* Index Medicus new series 1960~

この index が発行されるまでに類似のいくつかの index が発行されていた。即ち Index Medicus old series (1876-1926) は三つのシリーズで発行され医学文献への最も完全な index であったが財政的困難で、1927年に Quarterly Cumulative Index Medicus (1916-1956) と合併、この index はアメリカ医学会により季刊で発行されていたが第二次大戦からその発行が可成り遅れ始めた。その結果として Current List of Medical Literature (1941-1959) が医学文献への最新のガイドとして軍医学図書館から発行され始めた。さて1959年に Quarterly Cumulative Index Medicus と Current List of Medical Literature の合併が考えられ、前者は60巻(1956年6月-12月)で発行を中止し、それ以後1957年-1959年の医学文献は後者によりカバーされ、その後を引継いで1960年1月より Index Medicus new series 1960~ が国立医学図書館により月刊で発行を開始し、その各号はアメリカ医学会によって再編集の上年間の Cumulated Index Medicus として出版されている。前者は現在8巻(1967)、後者は7巻(1966)に達している。収録雑誌数は約2,500種又収録論文数は恐らく20万を超えているだらう。この index は件名索引と著者索引の二つのセクションからなっている。但し、1967年 vol. 7 の Index Medius から review article のみを別に取り出して Bibliography of Medical Reviews, subject 及び name section の項目を新に設けている。

件名索引：一論文当たり平均三つの標目を持つている。記入は各標目の A.B.C 順で各標目下の記入は原著論文の言語によりグループされる。先づ英語で書かれた論文の記入が最初に来、次いで他の言語で書かれた論文が各言語の省略名の A.B.C 順で排列され、同一の言語の中は雑誌の省略名の A.B.C 順によっている。各記入は論文の題名(若し英文で現われる場合)又は論文の題名の翻訳名(若し外国語で現われる場合)、著者(共著者がいる場合第一の著者)、雑誌の省略名、巻数(頁数、発行日を含む)及び原著論文が英文以外の言語であるならばその言語を示す省略名の順で印刷されている。

ABDOMEN (A 1)

標目 └──┐ categorized list の位置を示めず記号

Fever, abdominal pain and acrocyanosis in a patient

論文の題名

with chronic pulmonary disease.

Amer. J. Med. 41 : 300-8, Aug. 66

略誌名 巻数 頁数 発行年

Early muscular dystrophy: differential patterns of

weakness in duchenne, limb-girdle and

facioscapulohumeral types. Chyatte SB, et al.

第一の著者のみ 第二以下の著者は et al. として
現われる 省略

Arch. Phys. Med. 47 : 499-503, Aug. 66

[Technic of intra-abdominal cardiac transplantation in

→ 英文翻訳論文名を示めず角括弧

rats] Bui-Mong-Hung. et al.

Presse Med. 74:2047-9, 24 Sep. 66 (Fr.)

英文以外の言語の省略名

CYTOLOGY

subheading (副標目)

[Some anomalies of mitotic cell division at the surface
of a foreign body in the abdominal cavity] Gol'tman

LL. **Ark. Pat.** 27:72-4, 1965

(Rus.)

件名索引により調査を行なう場合にはその中の論文は毎年別冊及び7巻(1966)の Cumulated Index Medicus からの subject section の補遺として発行される MeSH (Medical Subject Heading) と呼ばれる件名標目表により索引されるのでこの使用法を知った上で利用することが必要である。特に前にさかのぼって使用する場合件名標目表に標目の追加削除及び使用法等に一部変更があるのでこのことを知っておくことがより重要である。なお、7巻(1966)から4-6巻(1963-1965)で使用を停止していた副標目を再び使用している。この他に4巻(1963)から categorized list を毎年別冊として発行の MeSH の中に掲載し始めた。このリストの目的は例えば Antibiotics という一般的標目の下に Penicillin の様な特定の標目が一段下げて A.B.C 順に排列されている。これは、用語を類別化してそれらの関係を暗示するためのもので検索を行なうのに有用なツールになる。なお、件名標目表には See, See under, See also related, See also specific の四つの相互参照を使用している。See 参照は同意語から MeSH の標目へ参照 (Cancer see Neoplasms (C 2)), See under 参照は標目表にない特殊の用語から標目表の一般的標目へ参照 (Acanthocephala see under Helminths (B 1)), See also related 参照は関心のある分野に関係がある資料を含む可能性がある他の category 内の関連用語に参照 (Sodium Chloride (D1) see also related Diet, Salt-Free (E2)), See also specific 参照はこれは categorized list が用意されたので必要性は非常に減少した。その主要な使用法は異なる category 中に現われる標目の特殊の要素へ参照 (Tobacco (B 6) see also specific Nicotine (D 2, D 4))

CANCER See **NEOPLASMS (C 2)**

この標目のもとに論文は index されない この標目のもとに論文は index されている

NEOPLASMS X CANCER (C 2)

↓
cancer から参照されたことを示す

著者索引： 著者の名前の A,B,C 順で排列されている。その記入は著者の名前(姓及び名の順) 論文の題名(自国語)、雑誌の略名、巻数(頁数及び発行日を含む)、英文以外の言語である場合はその略名の順で現われる。但し日本語等13カ国語で書かれている論文の題名(件名索引も同じ)は自国語でなく英語に翻訳の論文の題名で収録され、それ以外の37カ国(英語を除く)についての論文は自国語で書かれており、これは原著の論文の題名を知るために有用である。完全な記入は第一の著者の名前のもとにのみ現われ第二第三の著者の名前は第一の著者の名前のもとに相互参照されている。伝記、死亡記事等の個人についての論文は括弧につつまれた被伝者又は故人の名前のもとに収録される。ただし著者がある場合はその著者のもとにも現われている。この他に Anonymans という subsection が匿名外国語の論文へ参照のために著者索引の終りにのせられ、その記入は雑誌の略名の A.B.C 順である。

(Cabrera E), Picolo E: Omaggio alla memoria

被伝者又は故人の名前が括弧 〱 著者 (この著者でも現われる)
につつまれている

di Enriquer Cabrera: 1918-1964, Cardio Prat

15: 1256-6, Feb. 64 (It)

Fournier F, Larche, Penard MT: Evolution an cours du

著者 (3人までは記入される)

論文の題名は日本語等 13 カ国以

temps de la structure de M. tuberculosis var. hominis

外は自国語で記入される

examinée par diffraction des rayons X. CR Acad

雑誌の略名

Sci (Paris) 259: 2318-9, 5 Oct. 64 (Fr)

巻数

頁数

発行日

〱 原著論文が英語以外で記入された省略国語名

Picolo E: Omaggio alla memoria di Enriquer

Cabrera: 1918-1964, Cardio Prat 15: 125-6, Feb. 64 (It)

Sidransky H, Staeholin T, Verney E: Protein

synthesis enhanced in the liver of rats forced-fed

of threonine-devoid diet. Science 146: 766-8

Ueda T, Okamoto E, Iwasaki T, et al: 〱 [Malignant

英文翻訳論文名の場合角括弧につつま

tumors in children] Clin Surg (Tokyo) 19: 1047-54, Aug. 64 (Jap.)



理学部の開設は、昭和5年である。昭和5年から6年にかけて6学科24講座として発足したようである。以来42年を経過した現在では、書庫のスペースをみてもわかるように既に限界に到達している。従って図書掛としての機能を十分に発揮することにもいろいろな問題が生じてきている。

理学部は御存知の通り、純粋科学の研究および教育の場としての存在価値がある。最近学者によって日進月歩に研究が前進しているそのなかで学術情報を提供する図書掛員の果す役割は重大といわなければならない。

現在は設立当時の2倍に講座数が増えている。学科の新設、講座の増設に伴って各学科でも、雑誌室を設け図書事務担当者を配置するようになった。従来雑誌等は製本登録した後に中央図書室の書庫に所蔵して、集中管理をしておりましたが、書庫が狭隘になったこと、そして新館研究室が出来て、距離的に離れている学科がある現在では、集中管理は不能となり、分散管理をとる状態となっている。

中央図書室は、3つの階にわかれており、中2階は物理学、化学、植物学関係、中3階は地質学鉱物学、動物学関係、中4階は数学関係に分割されており、それぞれの階が独立した図書室である。そのため図書掛員の日常業務が非常に不便を来している。それぞれの階に閲覧

担当の掛員を配置している。この不便を解消するために色々と対策を講じてみたが、結局は、現状から一步も改善されずに終るようである。

各階には閲覧室がなく、書庫内に少人数の座れる閲覧机が置かれているのみで、利用される教官、学生には甚だ申し訳なく思っております。

当学部はコンテンツサービスを一部の雑誌について行なっている。各学科共通的な文献のみである。文献は学術基礎的資料が圧倒的なので、図書掛のみでサービスすることには限界がある。各学科で教官等の必要に応じて文献複写しているのが実情である。

この他にゼロックスによる複写業務がある。雑誌の論文が殆どであり、1カ月平均4,500枚から5,000枚位ある。

レファレンスサービスとしては、学術雑誌所在目録、新着図書目録を作成し、配布し、利用者に不便をかけないように努力している。

日常業務の他に、所蔵図書のインスペクションを行なっている。現在のスタッフでは、なかなかスムーズに進行していないが、2年前より実行している。

学部の学術論文の研究発表の場として、紀要の出版がある。これは各学科毎にシリーズ名を入れており、現在では欧文9種、邦文1種を発行している。一応毎年定期的に発行されてるものが多いので、発送事務、そして交換申込があり、これに要する時間も決して少なくない。

書庫狭隘の打開策として、バックナンバー、重複本(紀要その他)、旧版単行本その他の図書を、附属図書館旧館を保存書庫として利用している。しかしこれも割当冊数として受けたスペースの書架が満杯になっている。

将来の方針としては、書庫の問題、教官、学生の閲覧室の新設、中央図書室と学科図書室と事務上の有機的な関連をとりながら——合理的な業務の配分——といった問題は今後どうあるべきか、十分に熟慮検討しなければならない。

以下昭和41年度の理学部図書利用状況を載せてみた。利用者数のうち、理学部以外が約30%利用したことになっている。

図 書 利 用 状 況

種 別 学 科	図 書 冊 数 (冊)	利 用 者 数		貸 出 冊 数		掛 (担 当 者) (名)	備 考
		年 間 (人)	1日平均 (人)	年 間 (冊)	1日平均 (冊)		
中 央	44,939	6,697	22	6,799	23	8	
数 学	7,189	4,530	15	4,530	15	2	
物 理	4,179	3,860	13	3,860	12	1	
化 学	6,810	3,900	13	11,340	38	1	
地 質 鉱 物	4,503	2,970	10	1,320	5	1	
植 物	7,880	1,890	6	7,032	23	1 (業務)	
動 物	4,639	1,850	6	3,170	11	1	
地 球 物 理	1,521	1,057	4	2,575	8	1	
高 分 子	812	1,731	6	1,859	7	1	
化 学 第 2	812					1	化学と同室
合 計	83,284	28,485	95	42,485	142	18	

注) 図書冊数に対して利用者数、貸出冊数が多いのは、雑誌の分冊利用があるためである。

文部省大学図書館職員講習会に参加して

— 昭和 42 年度 —

今年度の講習会は東京、京都、仙台の各都市で行なわれ私達はこの中の仙台市にある東北大学松下記念講堂に設けられた会場に出席しました。

松下記念講堂は仙台市西方の市街が一望できる高台にあり、まわりは青葉城、動物園、植物園など仙台市の名所、旧跡があるすばらしい環境です。

肌寒い 10 月 17 日からはじまった講習会は北大からは 5 名、全体で東北、北海道より参加した 53 名です。午前 10 時開講、はじめに文部省、東北大学附属図書館長のあいさつではじまり、講義のトップは司書講習会時代のなつかしい岡田 温先生の「専門図書館職員のあり方」ではじまり四日間の日程がはじまりました。

紙面の関係で全体を説明することができないが、この中で印象に残るパネ・デルイスカツションは「参考図書の構成と解題」「レファレンス・サービスと二次刊行物利用法」のふたつのテーマで行なわれ、この内容は主に次のようなところに意見が集中しました。

1. 参考図書の構成について
2. 国連資料の利用法について
3. 冊子目録について
4. コンテンツ・サービスについて
5. 二次刊行物の利用についてのオリエンテーション

以上各大学の現状にもとづいて現場の意見としていただきましたが、非常に実感のこもった意見で他の大学と比較して北大の現時点がわかるような気がします。

しかし全体的に二、三の大学をのぞいてファレンス・サービスというような積極的なサービスはまだまだ先のように感じられました。そして最終日 10 月 20 日は図書館見学と業務改善についてのレポートを書いておわりました。

(附属図書館、佐藤 透・和田章憲)

◆学内図書館だより

北海道大学図書館〔本館〕収書通報 No.3 (1967. 4—1967. 7)

B 5 版 191 頁 オフセット印刷 1967 年 10 月刊

◆人 事 住 来

配 置 換

舟 木 俊 男 応用電気研究所図書室 (法学部図書掛)

新 規 採 用

藤 田 昭 男 法学部図書掛

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 1, No. 6 (通巻 6 号)

1967 年 12 月 5 日 発行 発行人 斉 木 一 郎

発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北 8 条西 5 丁目 電話代表 71-2111 (2964)

印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北 3 条東 7 丁目 電話 23-5560